

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520025

研究課題名(和文) 東アジアから発信する 共生のための知 の探究と構築

研究課題名(英文) To the Research and Construction of the Wisdom for Conviviality from East Asia

## 研究代表者

長町 裕司 (NAGAMACHI, Yuji)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：90296880

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本も文化的背景からも地政学上もその中に位置する東アジアという歴史的伝統からの「知恵」と西洋精神(とりわけキリスト教の宗教性と哲学の知の運動)に由来する宗教哲学的思惟との調和的統合を目指すことを核とし、地球的規模での射程の広い「共生」のあり方の探求を学術上の研究課題とした。

「宗教思想から拓かれる共生」を焦点とする共同研究では、本課題執行の三年に亘って研究代表者と各研究分担者が執筆も協力して、3冊の教科書としても活用されている単行本(『宗教的共生の思想』『宗教的共生の展開』『宗教的共生と科学』、教友社刊)にその成果の一端が提示されている。

研究成果の概要(英文)：I set an inquiry about a way of “living together” in the global scale as my academic research assignment, aiming as its core at harmonious integration of the “wisdom” from historical tradition of East Asia, in which Japan is located both culturally and geographically, and the thought of religious philosophy stemming from western spirit (especially, Christian religiosity and a movement of philosophical wisdom).

In our collaborative research focusing on “living together lead from religious thought”, principal investigator and co-investigators had worked together for three years in execution of this project to publish three books, which are used as a text book, and held “religious philosophy forum,” welcoming many of young researchers and general audience, for two days in the end of march in each year. These are the parts of our research products.

研究分野：宗教哲学、ドイツ哲学、キリスト教思想

キーワード：宗教哲学 キリスト教思想 仏教思想 共生の知 日本思想史 日本的靈性 京都学派 神の死

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学術的背景としては、宗教間対話を

宗教哲学の分野で推進したものの成果においては、永らくキリスト教宣教師として日本に住み、同時に東京大学で仏教学(宇井白寿門下)と日本の国学の研鑽を積んだ上智大学名誉教授ハインリッヒ・デュモリン(Heinrich Dumoulin, 1905 - 1992)の仏教学者西村 恵信との共著『仏教とキリスト教の邂逅』(邦語 春秋社 1975年) また同著者のドイツ語での大部の2巻からなる Die Geschichte des Zen-Buddhismus ( : Zen - Buddhismus in India und China, : Zen - Buddhismus in Japan, Herder Verlag, 1986/88) 等は、その草分けとなると共に今日においても土台となる記念碑的研究であった。以上のデュモリン師による「キリスト教と仏教との対話の推進」の動向は更に、1982年に土居真俊、坂東性純、八木誠一、石田慶和、小野寺功、武藤一雄等の諸氏を发起人・幹事とする「東西宗教交流学会」の設立へと継承され、その後は上田閑照氏を先頭に今日に至るまで活発な学会活動が継続されている。当研究代表者長町裕司は2009年度以来「東西宗教交流学会」の正会員であり、研究分担者の一人田中裕氏は当学会の現会長である。学会誌『東西宗教研究』は毎年発行され、第29回の大会が2011年9月に京都で開催に至るまで、東西宗教に通底する諸テーマについて貴重な討論と研究諸論文を記録に留めている。

(2) 上述のような開拓地に立って、研究代表者自身の「キリスト教神秘主義(特に、マイスター・エックハルトを定礎とするドイツ神秘思想)と(西欧の伝統的な存在論的形而上学を超克する)現象学的共生論の展開」の研究、本応募研究の研究分担者の一人である田中裕氏による「西田幾多郎と京都学派の宗教哲学が A. N. ホワイトヘッドのプロセス神学と連動する可能性」の研究、また他の一人

の研究分担者である宮本久雄氏の「西欧の存在 - ペルソナ論的な共生論と東洋的な空論・縁起思想の関連点としての古代ヘブライのエヒエロギア」の研究、竹村牧男氏の仏教哲学と広く日本霊性史からの共生思想の研究、伊藤益氏の日本思想史の研究を統合し、今日の世界史的な精神状況における宗教的伝統からの「共生の知」の地平を刷新的に構築してゆくことを根本動機とした。

## 2. 研究の目的

(1) 今日先進諸国と発展途上国の地政学上の摩擦に端を発する未曾有の金融・経済危機や地球規模での自然環境問題を抱える世界史的状況の中で、相異なる文化圏及び宗教的伝統を背景とする人類が共生を旨としてゆくための諸条件を探求・認知する努力は、人文・社会系の基盤研究として不可欠かつ最重要な課題であると考えられる。本研究は、日本もその中に位置する東アジアという歴史的伝統からの知恵と西洋の宗教哲学的思考との調和的統合を核としつつ、同時にまた地球的規模での射程の広い共生のあり方の探究を学術上の目的とする。その研究成果から <21世紀における共生学>の構築へ向け、公共的に提供可能な積極的貢献を果たすことを最終的な研究目標とするものである。

(2) 東アジア圏の思想の脈動を根底から見直すと共に、混迷する西洋の精神的諸伝統(哲学、その中でも存在論的形而上学、倫理思想、言語論理、等)を21世紀のグローバル化および宇宙論化する時代にどのように解放せしめることができるかに向けての展望を開こうとする。

## 3. 研究の方法

人文的かつ学際的な研究にふさわしく、また仏教及びキリスト教それぞれの思想的遺産と今日の世界状況に直面しての反省・熟慮を十全に活性化できるよう、研究代表者及び

各研究分担者相互の研究集会と対話・連絡を蜜にし、それぞれの分担領域における専門研究の成果を随時（一年度に4回）会合において批判的に吟味し合う体制をとる。十全な資料準備のため、海外に渡航しての研究活動も併用すると共に、本研究プロジェクトの海外の研究協力者たちとも協力して国際シンポジウムを開催する。アカデミズムの厳密な概念分析を通しての研究を踏まえると共に、Narratology（物語論）を媒介とする他宗教の宗教伝承の奥行きからの「共生の根源的地平」に肉迫する。言語論的には、インド・ヨーロッパ諸語には集約されないセム系言語やハングル等の多様性を包含する研究の広がり志向する。

#### 4. 研究成果

「宗教思想の諸鉅脈とその対話的統合から開かれる共生」の問題地平を明らかにしてゆく本研究の探求を通して、以下のような研究成果が見いだせる。

(1) 平成24年度には、『宗教経験に於ける「個の自覚」と「普遍性」 古来よりの宗教思想および宗教哲学を通しての思索』（宗教哲学フォーラム No. 1）という総合テーマの下に、2013年3月9日（土）と3月10日（日）の両日に亘って学術講演会とシンポジウムを開催し、密度の高い討論による研究発展が促された。また本研究課題に参画する研究代表者／研究分担者／研究協力者たちの執筆による叢書『宗教的共生の展開』（宮本久雄編、教友社、2013年3月）が刊行された。

(2) 平成25年度には、上智大学シンポジウム『日本とヨーロッパを結ぶ 共生の思想 宗教・哲学・環境思想・言語学の側面』から考える』を上智大学ヨーロッパ研究所と本科学研究課題との共同プロジェクトとして開催し（2013年11月15日／16日）ヨーロッパからの招聘研究者と日本各地・大学らの専門研究者たち10余名が研究発表とパネルディスカッションを行い、盛況の内に

極めて充実した研究会合であった。また、上述の 宗教哲学フォーラム No. 2を『哲学的思惟と 神なる神 近代以降の日本とヨーロッパにおける「宗教への思索」』という主題設定の下に2014年3月15日／16日の両日に亘って開催し、昨年度と同様に多くの方々の来聴を賜ると共に、本研究課題のプロジェクト推進の宗教哲学な深化に大いに益するものであった。さらに昨年度に続いて、本研究課題に参画する研究代表者／研究分担者／研究協力者たちの執筆による叢書『宗教的共生と科学』（宮本久雄編、教友社、2014年2月）が刊行された。

(3) 平成26年度には、2014 Sophia - Symposium : Erkenntnis durch Erzaehlungと題する国際シンポジウム／学術講演会を上智大学文学部ドイツ文学科及び上智大学ヨーロッパ研究所との共同プロジェクトを組んで開催し（2014年10月25日／26日）、本研究課題の研究代表者と1名の研究分担者も学術講演およびパネルディスカッションを行った。2015年早春の 宗教哲学フォーラム No. 3の開催においては、『日本的霊性と現代の宗教哲学』というテーマの下に2日間に亘っての学術講演／討論／シンポジウムが行われこの度も多数の来聴者の方々と共に、本研究の探求課題推進にとって極めて有意義であった（2015年3月21日／22日）。

平成27年度については、『ドイツ神秘思想と 京都学派の宗教哲学』というテーマ設定の下に 宗教哲学フォーラム No. 4を開催した他（2016年3月20日／21日）将来へ向けて宗教的共生の思索を育成する上で「若手研究者フォーラム 哲学と宗教」no.1を、主として哲学と神学を専門に研究する博士前期及び博士後期課程の大学院生からの研究発表を首都圏の大学／研究機関から募って開催し、また一定の統一主題設定の下に大学院生3名のシンポジウムを開催した（2016年3月30日）。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

長町 裕司 『西田幾多郎の思索の道における宗教性を問い直す』、「東西宗教研究」第 15 号、査読 有、頁数未定(2016 年 8 月発行に掲載確定)

長町 裕司 『今日の歴史的状況の中での生を貫徹するキリスト教的靈性 ドイツ神秘思想からの靈的遺産 と ロヨラの聖イグナチオ的靈性の活路』、「カトリック研究」第 85 号、査読無、頁数未定(2016 年 7 月発行に掲載確定)

田中 裕、『二世紀のホワイトヘッド哲学：共生(きょうじょう)の智の探求のために』、『理想(特集 ホワイトヘッド)』第 693 号、2-14 頁、査読無、理想社 2014 年 9 月

長町 裕司 『キリスト教信仰と今日の現象学的思惟 神的なる神 をめぐっての、M. ハイデガーから J.=L. マリオンへの現象学的・神論における「思惟と信仰」の問題脈絡を改めて省察する』、「カトリック研究」第 83 号、査読無、37-61 頁、2014 年 8 月

田中 裕 『共生の哲学』、「宗教的共生と科学」(宮本久雄 編)に所収、査読無、教友社、33-63 頁、2014 年 2 月

長町 裕司 『宗教的共生 と 科学的世界像 西田幾多郎の場所論的思索からの照射』、「宗教的共生と科学」(宮本久雄 編)に所収、査読無、教友社、84-110 頁、2014 年 2 月

長町 裕司 『無 理解の透徹へ向けての思索的試み マイスター・エックハルトにおける 無を巡る問題脈絡 と西田幾多郎の下での 無の思索 の交差に向けて』、「西田哲学会年報」第 10 号、査読無、51-68 頁、2013 年 7 月

長町 裕司 『キリスト教思想における 人間中心性 とは?』、「ソフィア」239 号、査読無、88-112 頁、2013 年 4 月

長町 裕司 『住まう ことの哲学的思索からの宗教的共生 後期ハイデガーの思索圏より、そしてその後の発展路線』、「宗教的共生の展開」(宮本久雄 編)に所収、査読無、101-118 頁、2013 年 3 月

その他

〔学会発表〕(計 11 件)

長町 裕司 『西田幾多郎の思索の道における宗教性を問い直す 「西田哲学 とキリスト教」という問題に寄せて』、東西宗教交流学会、2015 年 8 月 6 日、京都 ガーデンパレス特別会議室

田中 裕 『ノエシスの超越とメタノエシス 田辺元の「懺悔道の哲学」再考』、宗

教哲学フォーラム、2014 年 3 月 16 日、東京都 四谷 上智大学

長町 裕司 『今日の歴史的・精神的状況に於ける、思惟の課題としての 神的なる神を巡って』、宗教哲学フォーラム、2014 年 3 月 16 日、東京都 四谷 上智大学

宮本 久雄 『プロメテウスの火と共生』、フォーラム「日本とヨーロッパを結ぶ 共生の思想」、2013 年 11 月 16 日、東京都 四谷 上智大学

竹村 牧男 『共生ということと仏教思想の課題』、フォーラム「日本とヨーロッパを結ぶ 共生の思想」、2013 年 11 月 16 日、東京都 四谷 上智大学

長町 裕司 『人間存在の中心 を淵源として拓かれる普遍的共生 キリスト教的人間中心性の刷新へ向けて』、フォーラム「日本とヨーロッパを結ぶ 共生の思想」、2013 年 11 月 16 日、東京都 四谷 上智大学

長町 裕司 『宗教経験を開示する 超越論的媒体発動 を巡って』、宗教哲学フォーラム、2013 年 3 月 11 日、東京都 四谷 上智大学

その他

〔図書〕(計 12 件)

長町 裕司(共著)、Praesens Verlag Wien, „Möglichkeiten und Querschläge. Erkenntnis durch Erzählung“、2016 年 3 月、179 頁

伊藤 益、北樹出版、『私積親鸞』、2015 年 10 月、220 頁

竹村 牧男、講談社(学術文庫)、『日本仏教 思想のあゆみ』2015 年 3 月、352 頁

宮本 久雄、知泉書館、『出会いの他者性 プロメテウスの火(暴力)から愛智の炎へ』、2014 年 3 月、341 頁

宮本 久雄(編)、教友社、『宗教的共生と科学』、2014 年 2 月、255 頁

竹村 牧男、大東出版社、『大乘仏教のころ』、2013 年 9 月、269 頁

宮本 久雄(編)、教友社、『宗教的共生の展開』、2013 年 3 月、248 頁

その他

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

特記事項なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長町 裕司(NAGAMACHI Yuji)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：90296880

(2) 研究分担者

竹村 牧男(TAKEMURA Makio)

東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：20175699

宮本 久雄 (MIYAMOTO Hisao)  
上智大学・神学部・名誉教授  
研究者番号：50157682

田中 裕 (TANAKA Yutaka)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：70197490

伊藤 益 (ITÔ Susumu)  
筑波大学・人文社会学部・教授  
研究者番号：80184662